



月刊 さいとうけん



《 ミニプロフィール 》

昭和34年、小さな写真屋に生まれる。
 大学時代は、ハンドボール部のキャプテンとして活躍。
 零細企業に育ったこともあり、中小企業を担当する通商産業省に入省。
 日米交渉や行政改革、地方行政(埼玉県副知事)などに携わる。
 平成18年衆議院千葉七区補欠選挙にて公募により選ばれるも、惜敗。
 平成21年衆議院総選挙において、比例南関東ブロックで初当選。
 現在、石破茂政務調査会長-さいとう健事務局長のラインで活動中。
 [趣味] 読書、カラオケ、ハンドボール
 [好きな食べ物] ラーメン、焼肉(特にカルビとハラミ)

「新しい政治」を求める声が高まってきております。この一年、個人的には、自民党の政務調査会事務局長など、一年生議員としては前例がないくらい働くチャンスを感じてきました。一方で、国会での議論に加わりながら、こんなんで本当にいいのかと憂いを深める日々でもありました。この数ヶ月だけでも、わが国の国政は大きく後退していると思えてなりません。外交も、経済も、財政も、社会保障も、教育も……

政治が、真摯で責任感ある処方箋を作り、体を張って困難な手術に立ち向かわねばなりません。日米関係を軸にしながらも巧みな外交力を養い、産業空洞化を回避しながら経済の競争力を磨き、安心できる高齢社会を目指して細い道ではあります。財政と社会保障の一体改革を進め、子育てはバラマキではなくて世界一の教育立国にカムバックすべく全ての教育関係者のエネルギーを集中し、自立しながら個性を発揮できる地方分権を断行する。

そのためには、年功序列の中で長くやることを目指すのではなく、短くてもいいから物事を成し遂げることと命をかける、龍馬のような、さわやかで、有能で、力強い、新しい政治家群の登場がどうしても必要で、これがなければ物事は動きません。現状はほど遠いと思いがながらも、さいとう健は一步でも半歩でも前進させるべく完全燃焼を続けます。皆様の「支援をよろしくお願ひ申し上げます。」さいとう健

国会議員

国のため死に物狂いで働く 政治不信の払拭は行動しかない

齋藤 健 ● 衆議院議員

政治不信が高まるなかであえて政治家を志す人もいる。経済産業省のキャリア官僚から転じた齋藤健・衆議院議員もその1人。当選1回ながら野党の自民党で要職を担う齋藤氏にその理由を問う。

なぜ政治家を志したのか。

「一言でいうと「見ちゃった」ということだ。役人を23年間やってきて通産大臣(当時)の秘書官を含め政治と接点を持つ機会が多かったが、このままではこの国は危ないという思いが募っていた。大きな改革が求められているにもかかわらず、政治が今までの枠組みを超えることを提案できるか疑問だった。

見ちゃった以上は自分でやらざるをえないが、役人としてできることには限界がある。自分には地盤もカネもなかったが、2006年、衆議院千葉7区の補欠選挙で自民党が立候補者を公募した。こんなチャンスはそうないと決断した。

民主党からの立候補は考えなかったのか。

国会議員になるのが目的ならそれでもいいが、そうではない。これまでの政治との付き合いを通じて、真

の改革ができるのは自民党のほうだとずっと思っていた。

官僚と違って議員は当選できなかったら明日も知れない身になる。

確かに当選するという保証もないわけなのだから、大きなリスクを背負うことは理解していた。でも、1度しかない人生なんだから、やらないうち後悔したくなかった。

実際には補選では落選し、09年の衆院選まで浪人が続いた。

退職金は選挙活動に充てており、収入はゼロ。次の選挙がいつあるかわからない。40代後半の人生でいちばん力が発揮できる時間を浪人として全部使ってしまうのかと思悩んだ。

そんなとき知人から電話があった。「お前のためじゃなく国のためにやるんだ」と励まされ奮い立った。結果的に浪人生活は3年4カ月続いたが、選挙直前、スタッフに対し「1

人の人間が命を懸けるといふのはこういうことだと見せるから、みんな必ずついてきてくれ」と訴えて鼓舞した。

民主党に風が吹くなか、落下傘候補、官僚OBといった何重苦もの重石があったが比例南関東ブロックで初当選できた。

自民党は若手議員が軒並み落選しており、当選1回で異例の要職に就いている。

いきなり環境部会長に命じられたのには驚いた。部長長というのは、これまで当選3回ぐらいの議員のポストだったからだ。それ以外にも当選2カ月でテレビ中継された予算委員会に質問に立たせてもらえるなど、思った以上に、やらせてもらっているという実感があふれる。この10月から政務調査会の事務局長に就かせてもらった。

自民党も変わった？

世間はもっと大きく変わってほしいと思ってるはずだ。組織、人事、政策……世間から見るとまだまだ十分ではない。野党なんだから思い切ったことができるはず。民主党の足を引っ張るよりは、自らが生まれ変わることにエネルギーを注ぐべきであらう。

政治不信が強まる一方だ。

政治家が死に物狂いで働いている姿を見せることしかない。そうすれば日本人全体の心にも火がつくはずだ。明治の頃がまさにそう。たとえば学校の先生は1人でも次の世代の人間を育てようという気概に満ちていたはずだ。経済界も同様だ。

政治を信用していない若者も、こんなときだからこそ自分で新たな政治家像をつくり出すチャンスなので、立ち上がってほしい。



Interview with Ken Saito

さいとう・けん/1959年生まれ。83年通商産業省(当時)入省、経済産業省電力基盤整備課長などを経て埼玉県副知事に出向。2009年衆議院選挙で千葉7区から立候補、比例南関東ブロックで初当選。

さいとう健 後援会事務所
 〒270-0137
 流山市市野谷665-40-103
 TEL: 04-7157-6223
 FAX: 04-7157-6224

メルマガ配信
 メールで月に1回程度、集会の案内、テレビ出演、掲載記事紹介、時事に対する考えを配信しています。ホームページから登録頂けます。

国会見学受付中
 本会議場や議員会館など、普段は入れないところも見学できます。本会議傍聴やサブライズゲストと出会うこともしばしば。

ボランティアスタッフ募集
 『月刊さいとう健』は、あなたの家に届いていますか？ポスティングやポスター掲示、ミニ集会開催のご協力をお願いします。

